

審議会等の会議結果報告

1. 会議名	平成29年度松阪市交通安全対策委員会
2. 開催日時	平成29年7月13日(木) 午前10時から午前11時15分まで
3. 開催場所	松阪市川井町772番地10 橋西地区市民センター 1階大会議室
4. 出席者氏名	委員：米田康広、原田孝夫、西村久夫、多賀幸子、寺田英子、遠村京子、伊藤 覚(代理)、三室俊幸(代理)、前田則生、千原勇、青木成子、内山宜哉、北村富美子、常保尚郎、藤谷祐介、竹川浩司(代理)、廣野 修、新山勝保、金谷 勇、西原敬子 警察：片岡 靖 安全協会：田中朋佳 三重県：若林智憲、田中良昭、本田伸哉、前川宏之 事務局：吉田敏昭、越川元博、大山久男、服部隆典、今井奏美 出口貴士 市役所：廣田昇、野邊敏彦、竹内史郎、竹田正明、野呂隆生 廣本知律、谷口謙吾、小出真貴彦、竹内信介、 松本守男
5. 公開および非公開	公開
6. 傍聴者数	0人
7. 担当	松阪市 環境生活部 地域安全対策課 電話：0598-53-4061 FAX：0598-22-1057 e-mail：anz.div@city.matsusaka.mie.jp

※議事録は別紙参照

松阪市交通安全対策委員会の結果報告について

開催日時：平成29年7月13日（木）午前10時から午前11時15分まで

開催場所：橋西地区市民センター 1階大会議室

出席委員：20名参加（内代理出席3名）

1 開 会

2 委嘱状の交付

市長より委員に対し、委嘱状を交付。

3 あいさつ

○松阪市長

- ・昨年松阪市で交通事故により亡くなった方は10名。全国ではワースト21位、上位を脱却できない状況が続いている。
- ・今年は、2名死亡している。各委員には各団体の代表としてこれ以上事故を起こさないため、積極的な議論をお願いしたい。

○松阪警察署長

- ・昨日現在、三重県での交通事故死者数は42名、前年比－13名。
- ・松阪署管内では、昨日現在4名が死亡している。前年比は－4名。松阪市では2名が死亡、前年比は－2名。
- ・交通事故を防ぐには警察の取り締まりだけでは足りない、それぞれの立場での御協力をいただき、死者を一人でも減らしたい。

4 委員長、副委員長の選任及び幹事、書記の任命について

○委員長、副委員長の選任について

委員長、副委員長を事務局より提案し、承認された。

○幹事、書記の任命について

幹事、書記を指名。

○委員長あいさつ

- ・この委員会は、松阪市の交通安全に関する対策等を調査、審議する機関である。
- ・基本的に年1回の開催である。委員の皆様には、交通安全に関することについて積極的に御協議いただきたい。
- ・各団体においても、交通事故の状況を厳しく受け止め、交通事故防止に努めていただきたい。

5 交通概況について

○松阪警察署交通官より説明

- ・昨年松阪署管内における交通事故死者数は13名。

- ・今年、松阪署管内では4名が死亡。松阪市では本年の死者数は2名。
- ・松阪市の交通事故の発生状況を見ると、総事故件数が2,683件で、前年よりも97件増加している。

6 協議事項

市の交通安全対策について説明。

【質疑応答】

(質疑) 委員長

- ・県の対策についても説明をお願いしたい。

(応答) 松阪地域防災総合事務所地域調整防災室総務生活課長

- ・交通安全意識とマナーの向上に向けた啓発協議、飲酒運転の撲滅、安全で快適な交通環境の整備についての取り組みを県全体で進めている。
- ・春、夏、秋、年末の交通安全運動を実施、現在は、夏の交通安全県民運動に取り組んでいる。
- ・県松阪庁舎職員交通安全ボランティア活動として、毎月11日啓発活動を行っている。
- ・交通安全シルバーリーダー育成研修を実施している。平成28年度は松和自動車学校で実施。松阪市からは、松阪市自治会連合会より2名、松阪市老人クラブ連合会飯南支部から6名の8名が受講。
- ・県職員に対する交通安全研修を3回実施。
- ・無事故無違反チャレンジ123事業を実施。
- ・交通安全カルタ作成。児童や高齢者に対する啓発。
- ・交通安全あんなびカルタは、今年度7月1日より、松阪市社会福祉協議会へ6セット貸し出し出しているの、活用していただきたい。

(質疑) 委員

- ・ゾーン30について。現在どの地区にあるのか。
- ・今後増やしていく予はあるのか。
- ・実際効果が上がっているのかどうか。

(応答) 松阪警察署交通官

- ・松阪署管内では、松阪城エリア、第三小学校エリア、幸小学校エリア、垣鼻東、垣鼻西エリアの5地区を指定している。
- ・今後、指定して交通事故防止を図る必要があるエリアがあれば、拡大も含め検討していく。
- ・効果について、垣鼻東、垣鼻西地区で実証を行った結果、制定前と比べ概ね3~4km/h平均速度抑止に繋がっていた。

(質疑) 委員

- ・スケアードストレート方式の交通安全教室とはどのようなものか。

(応答) 地域安全対策課交通安全対策係長

- ・スタントマンにより交通事故を再現し、直接見せることで事故の恐ろしさを実感させ、中学生の交通安全意識を高める教育。

(質疑) 委員

- ・交通ルールに対する子供たちの認識について、きちんと理解できているのか、周りにつられているだけなのか。

(応答) 委員

- ・子供たちが、やがて交通社会人になる前段階として身に付くまで教えることが重要。
- ・子供たちに教えるために、子供が興味を持つような教材を作成。
- ・保護者の意識がまだまだ低い。子供たちには、交通安全意識が根付いていると感じる。

(応答) 委員

- ・子供たちは散歩の際にも実際の道できちんと止まって周りを見ることができている。
- ・日々の繰り返しの中で身に付いていくことだと考える。
- ・保護者の意識についても、日々の繰り返しの中で変わってきている。

7 その他

事務局より対策委員会は基本的に年1回の開催であること、死亡事故が多発した際には臨時で開催されることを連絡。

8 閉 会